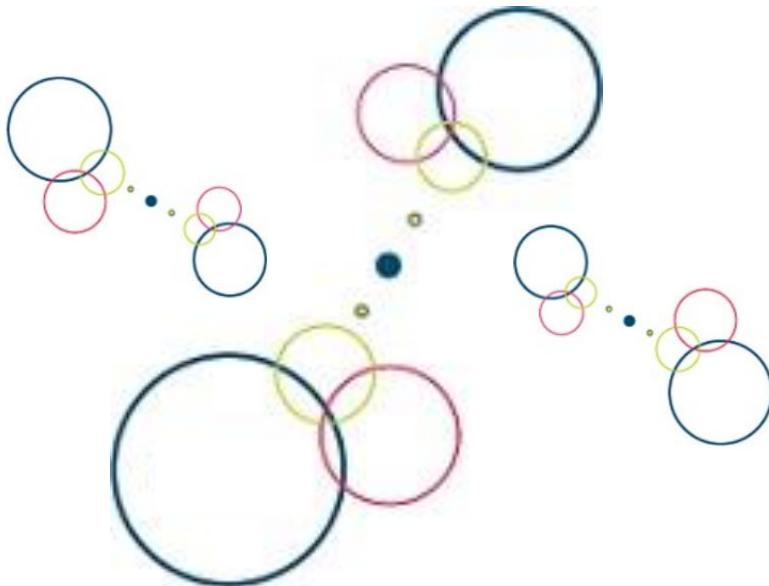


廣瀬仁のルポルタージュ

靈的人生を歩むためのヒント

2025/12/25



廣瀬仁のルポルタージュ 精神的人生を歩むためのヒント



「E21-F ④」 ^{アルトヌウロウイ} ARUT.NOROUY 足立育朗

本質の追窮、人間関係を通した靈性の進化について

2025年最後の「ルポルタージュ（記録文、報告文）」になり、2026年からは月1の配信を目標にします。廣瀬仁のルポルタージュを配信する目的は「靈的人生を歩むためのヒント」であり、これを読んでどう生きるのかはあくまでも皆さん次第です。

今回は「本質の追窮について」と「コミュニケーション」に関する情報配信にしますが、そもそも人間関係とは何か？健康とは何か？病氣とは何か？はすべて「人間とは何か？」という「本質的な問い」に關わっています。

そもそも「人間とは何か？」、更には「靈止^{ひと}とは何か？」という本質の追窮を現代

地球文化はしていません。「神とは何か?」という追窮と「^{ひと}靈止とは何か?」という追窮はセットなのですが、それすらも現代地球文化はしていません。そして更には「死とは何か?」、「生とは何か」の本質も追窮していません。本来、眞剣に人生を生きていたら誰しもが「死について、生について、人間について、生きる意味について、神について」を追窮するのが本当の生き方なのですが、殆どの地上人はそうした本質の追窮をしていません。

これらの答えは、ナザレのイエスの教えである『シルバーバーチの靈訓』ですべて語り尽くされています。

なぜ、わたしが「ナザレのイエス」と呼ぶのか、それは当時のイスラエルでは、10

人に1人がイエスという名前であり、日本の名字でいう「鈴木」と「佐藤」ぐらいに多い名前だったからです。イエスは紀元前7年に、イスラエルのナザレ地方で誕生しているのが2021年に地上再臨したイエスの証言で明らかになっています。イエスは紀元前7年から西暦26年の33年間を地上世界で生きており、西暦2026年はイエスが殺されてから2000年後という節目になります。

イエスの教えから明らかになつた眞理とは「人間とは大靈の分靈」であり、「人間は調和の實踐を通して靈性を進化させ、大靈に近づいていく永遠の存在」であり、人間の生きる意味とは「調和の實踐による靈性の進化」です。そして、死後の世界の實態、死というのは新しい世界に入るためのイニシエーション、死というのは嚴密には存在しないこと、これらが明らかにされています。

すべての惑星は、GINOという情報層が存在し、惑星は 0 km \sim 10 km が地上世界と幽界、10 km \sim 50 km が地上圏靈界、50 km \sim 80 km が宇宙圏靈界、GINOすべてを総称して「地球圏靈界」となり、「惑星地球文化」になります。

死後の世界は、靈的世界も地上世界も重なりあって融合しています。仕切りがあるわけではなく、自分自身の振動で死後の階層が變わります。要するに、自分自身の「内なる音（闇）」によって高い階層に行けるのか、低い階層に行けるのかが變わるということです。

闇とは光の源泉であり、光とは自分自身の振動が生み出しているのです。内なる静寂の世界とは音であり、闇を受け入れると光が輝き始めるのです。

神意の対象を拡大することが、靈性の進化の大きな意味

人間關係の本質とは「隣人を神意する、人類を神意する、敵をも神意する」というひと言であり、「なぜ敵をも神意する必要があるのでですか?」と問われたならば、それが「大靈の神意の具現化だから」と答えます。

では、「大靈の神意とは何ですか?」と問われたならば、「靈的向上を望む者には厳しさを、無知から間違いを犯している者には優しさを、眞理を知りつつ大罪を犯す者には相應の結果を与えること」が大靈の神意の本質です。

そもそも靈性の進化とは「人間關係を通してDEVHKをすること」でしか果たされま

デヴァイック

せん。では「DEVIKとは何なのか?」を履き違えている人が99%であり、殆どの人間

がDEVIKなど出来ていません。DEVIKとは宇宙語であり、地球だとサポートが近い言葉ですが、「DEVIKはヒントしか言つてはいけない」という決まりがあります。

デヴィック

デヴィック

デヴィック

そもそもDEVIKの原点は「直觀」であり、直觀が何かを傳え續けても、未だに殆どの人間が肉の心に支配され、顯在意識で戦略、策略を練り、相手を思い通りに支配しようとする愚かなEGHO的生活を續けています。

デヴィック

そもそもDEVIKの原点は「直觀」であり、直觀が何かを傳え續けても、未だに殆ど

DIKAG

DIKAG

DIKAG

エゴ

直觀とは「魂(靈の心)と顯在意識(肉の心)が同調した時に起る閃き、アイデア」であり、「靈の心と肉の心が繋がった時」であり、「DEVIKとは靈の心からのメッセージを地上世界で具現化するために工夫すること」を指します。

EXA PIECO

DIKAG

DIKAG

DIKAG

デヴィック

EXA PIECO

EXA PIECO

DEVIK

そもそもコミュニケーションの本質は、「EXA PIECO EXA PIECO 精の心と靈の心の振動波でのコミュニケーション」であり、コミュニケーションの本質は「EXA PIECO EXA PIECO テレパシー通信」になります。そして人間関係の本質が隣人へのあい神意、人類へのあい神意になります。、

しかし、地上世界では言葉や文字でのコミュニケーションが主流となり、その結果として「肉の心と肉の心での自分の都合で相手を利用し合うコミュニケーション」になり、お互いがお互いを疑い合って、利用し合うという人間関係になつており、隣人へのあい神意など地上人の大半はありません。自分さえあい幸福ならば、他人がどれだけ不幸になつても構わないという考え方あいが利己主義であり、地上人類の80%は利己主義に支配されています。だからあらゆる分野が詐欺ばかりであり、人間同士で騙し合つており、隣人に対して疑心暗鬼な世の中になつてしまっています。

眞理に心を合わせていたら、不必要なことで悩まなくなる

EXA PIECO D I K A G H A
人間の心には「靈の心」と「肉の心」があり、その心の不一致、不調和状態が病氣の9割の原因であり、健康學の基本である食事、運動、睡眠の3つも「心の反映」であり、地上人類の病氣の原因は「顯在意識（肉の心）のEGHO意識（依存、自我、感情、欲望）が病氣の9割の原因」であることに気づいている人は殆どいません。

現代文化でも、病氣の大半は「ストレス」というのは判明していますが、そのストレスの本質を知ろうとしている人はあまりいません。そもそもストレスの原因の7割が「人間關係」であり、「コミュニケーション」と「健康、病氣」は連動しています。だから、「コミュニケーション能力の向上は、健康で生きる上でも必須項目」である

ことに気づいている人が何故かいません。

人間関係において大切な心境、境地とは「泰然自若」の状態で常にいることです。

泰然自若とは、落ち着いていて、どんな状況でも慌てたり動じたりしない様子を表す四字熟語です。「泰然」はゆったりと落ち着いているさま、「自若」は普段と變わらず冷靜であることを意味し、この2つを重ねることで、困難な局面でも冷靜沈着で平常心を保つ様子を強調しています。

これは常に「眞理に“心”を合わせること」で可能であり、

いの
禱りの本質とは「眞理

に心を合わせようとする“心の所作”であり、この心構えの確立の境地を「泰然自若」や「明鏡止水」といいます。ドラゴンボール 超で、神々の技である「身勝手の極意」

も、泰然自若や明鏡止水の心境に至り、初めて實現可能な技です。音叉セルフヒーリング、生命の調律も「眞理に心を合わせること」を目的としております。

眞理性の進化は人間関係でDEVIKに成功してでしか果たされないことを受け入れる

デヴィック

そもそも眞理とは「永遠の法則」という意味であり、心を眞理に合わせていたら人

間関係で悩むということがなくなります。コミュニケーションとは「相互理解」のために存在しますが、それは「相手の時空元、振動波、靈性の段階を測るため」にコミュニケーションをしており、その情報を元に

デヴィック

「DEVIKを試行錯誤し、工夫すること」がコミュニケーションの本質です。なので顯在意識は、常に魂（靈の心）からの直觀

を元に、その情報を地上世界で具現化するために試行錯誤しなくてはならないのです。

D I K A G
E X A P L E C O

人生とは如何に靈性の進化のためのサポートを工夫し具現化するかが、そのまま自分自身の靈性の進化に繋がっています。

靈性の進化とは、常に人間關係を通す必要があり、自分だけが靈性を進化させる法則など存在しません。そもそも何故イエスが隣人への神意、人類への神意、無償の奉仕と自己犠牲を説いているのか、それは「人間關係」を通さなければ靈性の進化は不可能だからです。

D I K A G

なので、そこを怠り、「自分自身の肉の心の自己満足」だけで靈的眞理を學んだつもりで實踐していないバカ者は要注意です。必ず幽界最下層で地獄のような苦しみを味わう結果になるので、一刻も速く人間關係、コミュニケーションなくして靈性の進

化は不可能を受け入れ、精神的真理の信仰實踐と普及の道にシフトするのを忠告しておきます。

ご縁をコントロールすることが、幸運、不運の本質である

何事にも通ずることですが、物事には「勘、コツ、急所」というものが存在しますが、コミュニケーションの「勘、コツ、急所」を知らないと、人生すべてが上手くいかなくなるでしょう。そもそも幸運、不運を左右するものは「ご縁」であり、「運命とは命を運ぶ」と書きますから、「ご縁というものが運の本質」なのです。

簡単にいえば人間関係は自分自身でコントロールできますから、「運というものは

自分次第でコントロール出来る」のです。なので「眞の人生の成功法則とは、人間關係を如何にコントロールするか」であり、ある意味で運が大切です。そのご縁の仕組みの一部をお傳えします。^{つた}

- ① ご縁は「良縁」と「悪縁」が同時にくる
- ② 人を見抜く眼（※直觀、感覺、洞察力）が鍵になる
- ③ 悪縁とは直ぐに縁を切らないと大變なることになる
たいへん
- ④ 良縁には何が何でもしがみつかなければならぬ
- ⑤ 人を見抜くための箇所は實はコツが存在する

また、コミュニケーション能力が社會全般で必要な能力であり、結局良縁と出会い

ても、そうした人間に嫌われたら元も子ありません。例えば、成功者に可愛がられる人間とはどういう人間か、反対に嫌われる人間とはどういう人間か、これがそのまま人間関係とコミュニケーション能力の答えになります。何故なら、必ず可愛がられる人間の「共通項」、嫌われる人間の「共通項」というものが存在するからです。

確認作業が質問の意味のひとつ

わたしはコミュニケーションにおける最大のコツとは「**確認作業**」にあると思います。この確認作業がビジネスにおいてもプライベートにおいても最重要であるといつても過言ではありません。そして、この確認作業が完璧なほど、人間として信頼を築いていけます。逆に仕事でミスばかりしている人間というのは確認作業なんかほぼしないでいます。

ませんし、入念にミスがないかをチェックする思考など持ち合わせてないので、後々致命的なミスをやらかす可能性が非常に高いです。

實は質問力の第一歩は、この「確認作業」を如何に出来るかであり、これが「自己流」、「自分勝手」を防ぐスタートラインなのです。

こうした確認作業という質問すら出来ない人間は、人生すべてを自己勝手に生きていくので、成功者からは嫌われ、まともな人間はこうした人間を相手にしたくないので何も言わず離れていきます。要するに、賢い人ほどこうしたバカを相手にしないから成功できるのです。情のある人間ほど、こうしたバカを相手にして疲弊していく、クタクタになり、そして結果お金も回らなくなるという悪循環を繰り返します。人生

は悪縁と関わっている時間など無駄でしかないの、こうした悪縁をスッパリ切れる
かは人生の分岐点そのものになります。

何でもかんでも確認作業をするな

質問力がコミュニケーションにおいて最重要であると何度も述べていますが、そも
そも質問力がなければ人とのコミュニケーションは致命的になります。何故なら「地
上世界は言葉と文字によるコミュニケーション」だからです。

靈界は基本的にテレパシー通信ですが、「階層の差（※靈性の段階）を埋めるため
に、階層が低い存在は、階層が高い存在に質問という確認作業を徹底的に相互理解の

ため」にします。そうしなければ、必ず取り返しのつかないミスに繋がつてくるからです。しかし、地上世界の、バカと呼ばれる人間はこうした確認作業を怠ります。その結果、取り返しのつかない致命的なミスに繋がつてくるのです。

ただ、何でもかんでも他人に質問し確認作業をすればいいのかと問われたならば答えは「No」です。基本的にビジネスでも新人の時点では上司に徹底的に確認作業をして、成長していくに従つてキャリアを積んでいき、上司への確認作業は減つてくるはずです。要するに、新人ならばきちんと答えるが、新人じゃなければ答えねーぞが常識であり、バカはそこを履き違えて、上司の貴重な時間を奪い、その貴重な時間を奪つたために、靈的な罪が増えていく地上人が多いのです。要するに「確認しないで自分の顯在意識で判断しなくてはならない場面」で、訳のわからない質問をされること

は苦痛でしかありません。

相手の貴重な時間を奪うというのが、靈的に最も重い罪

これは絶対に忘れないでほしいのですが、「時間とは命」であり、「相手の時間を無駄話で奪うは人殺し」であり、「人生は時間の使い方で幸運、不運が左右される」ことを忘れてはなりません。地上人類の大半は「時間泥棒という人殺し」をしています。

人生の成功者ほど「地上世界の時間は有限という意識」が強いので、無駄な時間を嫌います。地上世界の愚者ほど「時間への意識が希薄」で、時間の使い方を間違えています。「貴重な時間を奪うは命を奪う人殺しと同じ」であり、靈の大罪の中でも最も

重い罪のひとつです。これは、幽界最下層の暗黒地獄行きの中でも最も重い罪であり、無駄という悪業に見合った苦しみを味わうのが永遠の 眞理 法則なのです。

コミュニケーションにおける勘、コツ、急所について

コミュニケーションにおける勘とは「相手の呼吸」です。必ず人には独特の呼吸が存在します。何事においても、特に勝負事においては「相手の呼吸と自分の呼吸の聞合いで掴むこと」に極意があります。コミュニケーションにおけるコツとは「自分自身の呼吸を保つこと」です。勝負事において大事なことは「相手の呼吸を乱すこと」であり、コミュニケーションにおいては眞逆で、自分自身の呼吸を如何に保つかが大切であり、他人の呼吸に飲まると人はストレスを感じるようになります。だからこ

そ、常に自分自身の呼吸リズムを保ち動じないこと、これが直觀の鍵になります。

そしてコミュニケーションにおける急所とは「自分自身の欠点、弱点に氣づくこと」です。實は一番難しいのが、自分自身の欠点、弱点に氣づくことであり、欠点に氣づくには「素直と謙虚」が絶対条件になります。

殆どの人間は、自分自身の下らないプライドにより、自分自身の欠点、弱点を受け入れません。欠点、弱点は他人に指摘されない限り、ほぼ99%氣づくことは出來ません。自分自身のコミュニケーションにおける欠点、弱点を一番指摘してくれる存在は基本的に「家族」であり、赤の他人はそんな面倒なことはしたくありません。賢い人ほど何も言わずに引き潮のように離れていき、結果、自分自身の欠点、弱点に氣づけ

ないまま認知バイアスが非常に歪んだ「鬼婆化」した人間が出来上がりります。

長所と短所は表裏いったい一體

廣瀬仁のコミュニケーションは独特の呼吸リズムが存在し、初めは殆どの人戸惑うレベルですが、實は「自分自身の呼吸リズムを保つ最適な行動」を基本的にしており、それが直觀の受け取りの大きな理由になります。更に、わたしは相手の呼吸リズムにおいて人間觀察をしていますが、これがそのまま自分自身の呼吸リズムを保つ祕訣に繋がります。また、廣瀬仁は自分自身のコミュニケーションの欠点、弱点は把握してますが、それは「他人に欠点を指摘されてきて受け入れてきたから」です。しかし、そのまま欠点を放置する訳でもなく、常に「原因を追窮し、改善を試みてきて、人間成

長を繰り返してきた」経緯があり、「短所を長所に反轉させる工夫」をしてきました。

はんてん

そもそも「長所と短所は表裏一體」^{いったい}であり、人間の長所は一步間違えれば欠点になりますし、短所はひとつ工夫をすれば武器になります。

DEVIK

メールやラインの文字でのコミュニケーションは不調和

次はコミュニケーションの問題、なぜ人間関係の摩擦、衝突が起こるのかについての持論を話します。

基本的に摩擦、衝突は「相手への不満の蓄積」から起ります。まあ、こうした不满というのは人間関係で大なり小なり誰しもあると思います。

子どもというのは、こうした人間関係で我慢をしない、大人というのはこうした人間関係で我慢をしてストレスを抱えていく、これがストレスの方程式です。ここでのポイントは、「相手への不満を傳えているか否か」にポイントがあります。殘念ながら地上世界は言葉と文字のコミュニケーションですから、言葉に出して傳えなければ不満など基本的に傳わりません。ただ、相手に傳えるにしても問題はあります。「自分自身が問題の原因なのに、周りの責任にして不満という八つ当たり」をしている本物のクズも世の中にはいるからです。ただ不満を言うだけでは「相互理解」にはなりません。要するに「相互理解が信頼関係の鍵」なのです。

あと、リアルでのコミュニケーションは「1対1」が原則です。この積み重ねがコミュニケーション能力の向上に繋がっています。また、リアル以外でのコミュニケーション

ションは「電話」が原則であり、メールやラインの文字でのやり取りは完全にNGであり、地上人類のリアル以外でのコミュニケーションがメールやラインでの文字のやり取りが8割という異常極まりない状況になつてますが、これは高級靈いわく「詐欺師、犯罪者の思考になつていくからNG」だと述べています。

最大の理由は、携帯電話の半導體^{はんどうたい}から出る電磁波が原因で「顯在意識^{DIKAG}が狂つっていく」からです。そもそもメールやラインの文字でのコミュニケーションは「嘘つき文化に拍車をかけるから消滅させたほうがいい」という靈界での意見までありますから、電話が出来ない、電話をしたくないという心理は完全に「精神異常」です。わたしはそもそもメールやラインでのコミュニケーションは殆どの人としません。なぜ、詐欺師、犯罪者の思考になるのか、それは「肉の心で文字を考えて、いくらでも嘘をつくこと

が可能」だからであり、だからわたしは極力メールやラインでコミュニケーションをすることを避けています。

声と仕草は本音が必ず出るので隠せない

何故この話をするのか、それは言葉や文字でのコミュニケーションが「摩擦、衝突の大きな理由」であり、誤解や認識のズレが起こる原則だからです。電話でのコミュニケーションは言葉ではなく「声」でのコミュニケーション、リアルでのコミュニケーションは言葉ではなく「仕草」でのコミュニケーションです。

そもそも本音というのは「仕草」にすべて出ます。言葉や表情は誤魔化せますが、

声と仕草は殆ど誤魔化せません。要するにどんなに隠そうとしても隠せないので、嘘をつけないので。

コミュニケーションで誤解が起こるのは、「言葉の内容」を追っている場合、顯著に出ます。その反対に「声のリズム、トーン」を聽いている場合、誤認が非常に少なくなります。要するに「音を追っていると、振動^{バイブレーション}の世界に足を踏み入れ、振動^{バイブレーション}で眞偽が見抜けるようになる」のです。

波動でのコミュニケーション、テレビ通信の世界の入口は音、振動^{バイブレーション}の世界であり、地上人類が「波動でのコミュニケーション」にシフトするのが音叉セルフヒーリングの最大の目的です。廣瀬仁はまさにそれを體現^{たいげん}した状態なはずです。

音叉セルフヒーリングはスピリチュアリズムの大衆化の最高峰

最後に「音叉ヒーリング」についてを語ります。まず、スピリチュアリズムとニューエイジは本質的には「イエスが総指揮者、靈界主導の地球人類救済計画」です。その中心は「靈界通信」であり、時代背景が違うだけです。

スピリチュアリズム¹⁸⁴⁸、フォックス家事件から靈界の地上世界への介入を本格的に開始。カルデックやモーゼスの靈界通信を得て、靈的眞理を地上世界にある程度知らせてから、シルバーバーチの通信を開始させる。シルバーバーチの通信は1920年から1981年まで、イエスは1981年からスピリチュアリズム普及會^{ふきゅうかい}を40年間サポートし、2021年にスピリチュアリズム普及會を通してイエスの地上再臨を實現しました

ニューエイジ…1960年代より始まつたアメリカでのニューエイジの動きやチャネリン
グブームは「スピリチュアリズムの大衆化」という使命をもつて引き起こされたもの
です。

ニューエイジは広汎な分野にわたる「精神革命的な意味合い」を持つており、自己
啓発、ネットワークビジネス、精神世界、スピリチュアル系はすべてアメリカニュ
エイジ系の流れを汲んでいます。

ニューエイジ系は多分野（チャネリング、ニューサイエンス、トランスパーソナル
心理學、エコロジー思想、ニューエイジ形而上學、ホリステイック醫學いがくetc.）にわたる
底辺の広さゆえに、逆に大衆にとつて混乱のタネとなつています

靈界通信の開始がフランス、イギリスであり、そこから時代を経て世界各地で靈界通信が行われるようになりました。アメリカや日本でも靈界通信が頻繁に行われていますが、アメリカニューエイジ系は殆どが低級靈からの通信に成り下がつており、スピリチュアリズム本来の崇高な使命を果たせていません。

そもそもイエス主導の地球人類救済計画の主流がスピリチュアリズム、スピリチュアリズムの大衆化という分流がニューエイジなのです。音叉ヒーリングの地上世界最先端のスクールであるacutonics^{アキュトニクス}研究所もアメリカニューエイジであり、運動の法則もニューサイエンスというニューエイジに属します。

音叉ヒーリングはニューエイジの多分野すべてを統括し、イエス主導の地球人類救

济計画に繋げることで価値が生まれます。逆に、それ以外に音叉ヒーリングの価値など一切ありません。音叉ヒーリングは「星信仰の復活」として、ニューエイジの「精神革命的な意味合い」の最高峰に位置し、靈的眞理という靈的革命に繋げるための重要なものです。

シルバーバーチは地上人類の發展段階として「物質的レベル→精神的レベル→靈的レベル」の三段階があると言っています。

これを正しく直訳すると「物質的レベル・ユーワード活動を通した奉仕活動」、「精神的レベル・音叉セルフヒーリングの實踐と普及」、「靈的レベル・靈的眞理の信仰實踐と普及」という形になります。

惑星地球文化を正常に甦らせるために

音叉セルフヒーリングを正しく毎日の習慣にしていくと、「様々なコミュニケーション能力」が向上します。まず、「D I K A G F I K 顎 在意識と潜在意識のコミュニケーション」が向上し、「頭の声とカラダの声」が一致し始めます。また、正しく音叉セルフヒーリングをしていった場合、他人とのコミュニケーションもかわります。そもそもテレビショーンとは、「振動と振動による交流」であり、音叉セルフヒーリングを正しくしていたならば、おのずと相手の振動が無意識だろうが意識的だろうが徐々に分かるようになつていき、物事の眞偽が見抜けるようになつていくはずです。

靈的眞理の普及とは『イエスの地上再臨』、『イエスの教えであるシリバーバーチの

靈訓』、『靈界通信を地上世界で體系化したスピリチュアリズムの思想體系』の信仰實たいけいか 践が初めにありきで、その後に普及です。地上人類への最大の奉仕、最大の利他は靈的真理の普及です。その教えの眞髓は「靈優位の努力」と「無償の奉仕と自己犠牲の實踐」であり、靈優位の努力が音叉セルフヒーリング、無償の奉仕と自己犠牲の實踐の場所がユーワード活動という風に置き換えています。

わたしの地上世界で生きる意味は、惑星地球文化を正常に甦らせることが最優先であり、そのためならわたしは幾らでも犠牲になる覺悟など出來ています。

惑星地球文化を正常に甦らせるためには「死と死後世界について」、「神と自然法則について」を學ぶことが必須条件です。そして、その上で「靈優位の生き方、利他、

奉仕の實踐、健康の維持、生活必需品の確保のために音叉セルフヒーリングとユーワード活動」が必要であり、すべては繋がっています。

その中で、わたしが今回の地上世界でやらなくてはならないことは「靈的眞理の普及と音叉セルフヒーリングの普及」であり、それは「靈優位の努力」のために必要なことだから普及する必要があるのです。

しかし、その重要性に気づいている人は殘念ながら地上世界にはわたし以外にはまだいません。そして地上人生において無駄なこと、靈性を墜落させる方向で生きようと必死であり、こうした顯在意識のEGHO意識を増大させる愚かな生き方を続けて死後に激しい後悔と懺悔をする結果になることに気づいている方は殆どいません。

敢えてはつきりいいますが、地上世界で靈的眞理の信仰實踐と普及、音叉セルフヒーリングによる靈優位の努力と健康、音叉セルフヒーリングの普及より優先させるべきことは地上世界には存在しません。それ以外はすべて時間の無駄であり、命の無駄遣いです。無駄なことに時間を使っているから靈界からサポートがみんなのにさつきと氣づかなければなりません。

すべては靈的眞理の普及、音叉セルフヒーリングの普及のためにコミュニケーション能力を磨く必要があり、コミュニケーション能力を磨くことで一人でも多くの人々を靈的に救済することが地上世界で一番大切なことなのです。その大事業にさつきと氣づき、靈的に見て無駄なことをやめ、人生を軌道修正できる人がひとりでも増えることがわたしの望みです。